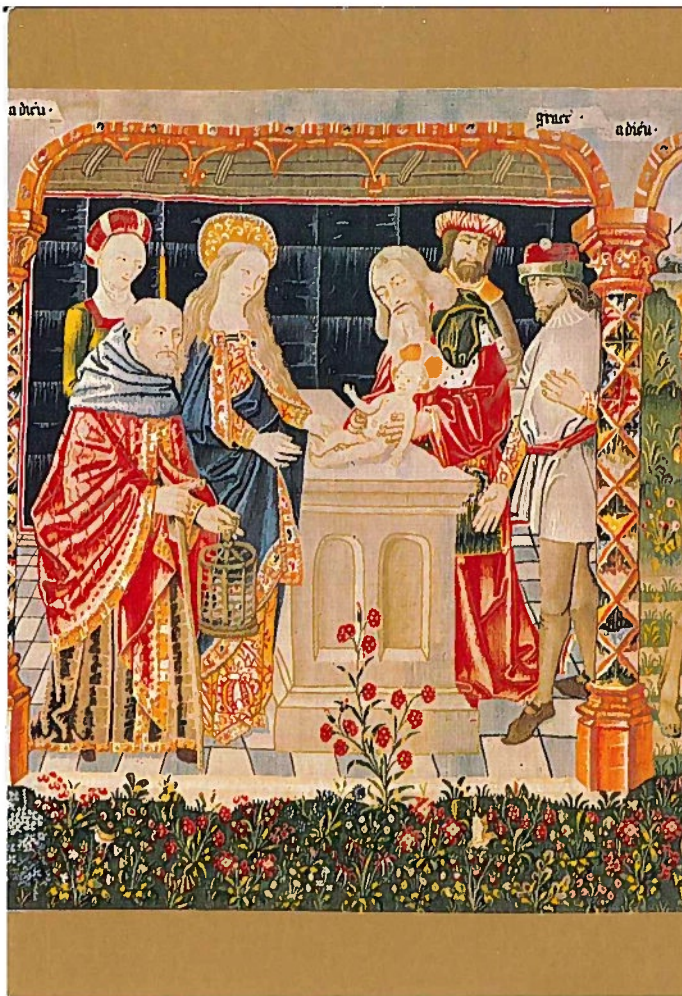


2012年(平成24)2月

カルメル 霊性センターニュース



2012年2月

273号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

259 回目の一般謁見演説(2) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 5

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・ 4 4

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 5

特 集

教皇ベネディクト十六世の 259 回目の一般謁見演説（2）

「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について

2011年2月16日（水）午前10時30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の259回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第3回として、「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.17）

※ 霊性センターニュース1月号～4月号に連載中です。

（前号からの続き）

カルメル会の改革に参加することは容易なことではなく、ヨハネに深い苦しみを与えました。もっとも悲惨な出来事は、1577年にヨハネが捕らえられ、トレドの緩律カルメル会修道院に幽閉されたことです。それは不当な告発に基づくものでした。聖ヨハネは6か月間軟禁され、身体的・精神的なはずかしめと脅迫を受けました。彼はこのとき、他の詩とともに有名な『霊の賛歌』（Cántico espiritual）を書きました。

ついに1578年8月16日から17日にかけての夜、ヨハネは危険を冒して牢から脱け出すことに成功し、トレドの跣足カルメル会修道院にかくまってもらいました。聖テレサとヨハネの同志の改革派修道士たちは大きな喜びをもってヨハネの解放を祝いました。ヨハネはしばらくの間元気を回復するのを待った後、アンダルシア地方に赴きました。ヨハネは10年間、アンダルシア地方のとくにグラナダのさまざまな修道院で過ごしました。彼はカルメル会のますます重要な職務に就き、ついにはアンダルシア管区長代理となつて、霊的論考の著作を完成しました。

やがて彼はテレサの修道家族の顧問会の顧問として生地に戻りました。テレサの修道家族は当時完全な法的自治を獲得していました。ヨハネはセゴビアのカルメル

会修道院に住み、この共同体の長上の職務を果たしました。1591年、彼はあらゆる職責を解かれ、新しくできたカルメル修道会メキシコ管区に行くよう命じられました。他の10人の同志とともに長旅の準備をする間、彼はハエン近郊の人里離れた修道院に退き、そこで重い病にかかりました。ヨハネは模範的な落ち着きと忍耐をもって大きな苦しみに耐えました。

1591年12月13日から14日にかけての晩、修友が読書課を唱える中、亡くなりました。「今日わたしは天国に行って、聖務を唱えます」。彼はこういって息を引き取りました。ヨハネの亡骸はセゴビアに移されました。ヨハネは1675年クレメンス十世（在位1670–1676年）によって列福され、1726年ベネディクト十三世（在位1724–1730年）によって列聖されました。

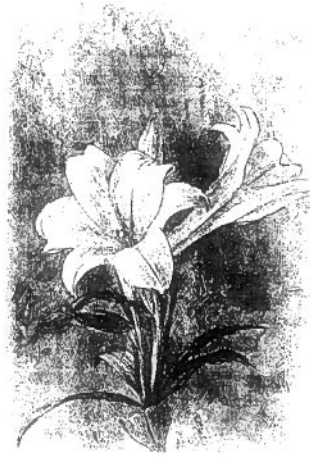
ヨハネはスペイン文学の中でもっとも重要な抒情詩人と考えられています。もっとも重要な著作は次の4つです。『カルメル山登攀』（Subida del Monte Carmelo）、『靈魂の暗夜』（Noche oscura del alma）、『靈の賛歌』、そして『愛の生ける炎』（Llama de amor viva）です。

『靈の賛歌』の中で、聖ヨハネは靈魂の清めの道を示します。靈魂の清めの道は、靈魂が神から与えられる愛と同じ愛をもって神を愛すると感じるに至るまで、神を少しずつ喜びをもって享受していく過程です。『愛の生ける炎』は、この展望を引き継ぎながら、神との一致と変容をさらに詳しく記述します。ヨハネはつねに火のたとえを用います。火は、木を熱し、燃やせば燃やすほど、ますます白熱して炎となります。聖靈もそれと同じように、暗夜の中で靈魂を清め、「洗い」、やがて靈魂を炎のように輝かし、熱します。靈魂の生涯は、たえず聖靈を賛美することです。聖靈は、神との永遠の一致の栄光をかいま見させてくださるからです。

『カルメル山登攀』は、靈魂の段階的な清めという観点に基づいて靈的な歩みを解説します。靈魂の清めは、キリスト教的完徳の頂に上るために必要とされます。このキリスト教的完徳の頂を象徴的に示すのが、カルメル山の頂上です。清めは、神のわざと協力しつつ人間が歩む道として示されます。それは、神のみ心に反するあらゆる執着や愛情から靈魂を解放することを目指します。清めは、神との愛の一致に達するために完全なものでなければなりません。

（次号に続きます）

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十二章 人生のみじめさ

5 延ばしてはいけない

おお兄弟よ、霊的な道を歩めるといふ信頼を失わないようにしなさい。その機会と時とはまだある。なぜあなたのよい決心を延ばそうとするのか？立ってすぐ実行し、そして「おこなう時は今だ、闘うのは今だ、自分の生活を改めるのは今だ」と言いなさい。あなたが悲しんでいる時、患難にあう時、その時こそ、功德を積む時である。あなたは慰めに達するまでに、火と水とをくぐらなければならない(詩編 66・12 参照)。自分自身を手厳しく扱わないなら、どんな欠点にも勝てないであろう。私たちはこの弱い肉体を持っているかぎり、罪をまぬがれず、また倦怠と苦痛とを感じないわけにはいかない。私たちは喜んですべてのみじめさを脱ぎ去りたい。まして原罪のために清さを失い、同時に真の幸福をも失った私たちである。だからこそ、「悪の時代が過ぎ去って」(詩編 57・2)、「死ぬべきものが、不滅のうちによみがえるまで」(ニコリント 5・4)忍耐を保ち、神のあわれみを待たねばならない。

人生の中で
一瞬たりとも
神に渴かずにいる時がないようお願いなさい。
そして聖母は
あなたに与えてくださるでしょう…無償で。



ルルドの洞窟

聖母にお返しをしようと思わないように。
聖母は無償で子供たちに与えるのがうれしいのです。
子供が母乳を買ったりしないように、
わたしたちは神のいのちを買ったりはしないのです。
神は与えてくださいます。
神は与えることを喜びとされます。*

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd



ルルドで祈る

P. マリー・エウジェンヌ

マリー・エウジェンヌ神父は「人々を神へと導く使命」があると自覚し、どのような状況にある人々にも優しく神の道を指し示していました。その根底には「常に神に飢え渴いている」ことの大切さが強調されています。決して現状、満ち足りた自分にとどまっていはいけないと。それはリジューのテレーズの「小さき道」と呼ぶ「神の慈しみの愛」の要求です。常に小さく、貧しいものとして神のみ前にとどまり…神の愛、いのちを溢れるほど注いでいただく…英雄になることではなく、「神の愛といのちで満たされた小さな器」、これこそがテレーズの聖性であり、マリー・エウジェンヌ神父が生き、現代の人びとへ告げたいメッセージです。わたしたちの日々の生活にこの生き方を取り入れて、心の平安を保つことができますように。2月のルルドの聖母の祝日にあたり、聖母のとりなしを願って。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『聖霊を友に』より：東京上野毛、宇治カルメル黙想の家にて購入可 200円

エデンの園(13)

くのり 九里 彰

荒涼とした自然、その原因は、「自分のことばかり考えて」「神の声に耳を傾けること」が「あまりにも少なかった」からだ、詩人は言う。

エデンの園では、人間は、自分を創られた神と、やはり神によって創られた自然と対立することなく、平和的に共存していた。しかし、この平和は原罪を犯すことによって失われる。原罪とは、すでに見たように、人と女が「善悪を知り、神のようになる」(創 3・5) ことを望み、「決して食べてはならない」という神の命令(2・17) に背いて「善悪の知識の木」の実を食べたことにある。

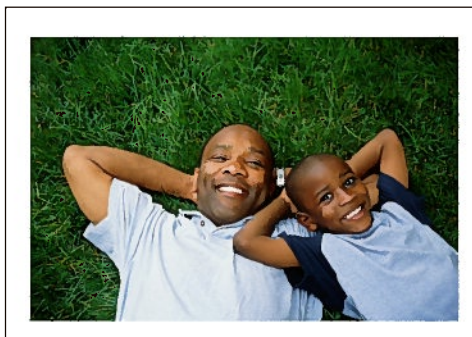
この罪を犯そうとする時、人間には、二つの声が響いていた。すなわち、「決して食べてはならない」という神の声と、「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開けて、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」(3・4) という蛇の声である。蛇は誘惑者の象徴であり、後代にはサタン(原意は「敵対者」とされているが、人間の心の中に絶えず生じてくる、神に逆らう傾き、力と取ることができる。

いずれにせよ、神の声に逆らうようそそのかす誘惑の声に人間は従ってしまうのである。このことは、最初の間が行なったことで、現代の私たちには関係ないと思われるかもしれないが、この状況は、現代の私たちの心の内にも、絶えず起きているのである。つまり、二つの相反する声が聞こえる時、私たちも、もし神に反する声に耳を傾けてしまえば、楽園にはいられなくなるのである。

創世記では、神によって神の園から追放される(3・23)。その前に、女には出産の苦しみ、男には労働の苦しみが罰として与えられている(3・16-19)。追放の理由は、そのままいると今度は「命の木」の実を食べてしまうといけないからというものであるが、追放自体が、原罪に対する罰として捉えることができる。いずれにせよ、人間の一生は、苦しみで満たされものとなる。

聖書の物語は、人間の基本的な姿を指し示している。それは、神の存在を無視し、自分が神のようになり、思いのままに行動しようとする姿であるが、神の園の主人は、神であるから、人間が神のようになり、主人のように振舞うためには、自分から神の園の外に出て行かねばならない。これは、イエスが語られた「放蕩息子」の姿に重なっている(cf. ルカ 15・13)。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (151)



奉仕活動と霊的生活

イエスのすべての言葉と行いは、御父との親密な関係から生まれています。「私が父の内におり、父が私の内におられることを、信じないのか。私があるあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。私の内におられる父が、その業を行なっておられるのである。私が父の内におり、父が私の内におられると、私が言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい」(ヨハ 14: 10-11)。

イエスのすべての言葉と行いが、御父との一致から生まれているのとまったく同じように、私たちのすべての言葉と行いが、イエスとの一致から生まれて来なくてはなりません。「はっきりしておく」とイエスは言われます。「私を信じる者は、私が行なう業を行ない、また、もっと大きな業を行なうようになる。…私の名によって願うことは、何でもかなえてあげよう」(ヨハ 14: 12-13)。これは、霊的生活と奉仕の生活の間関係を示す実に深い真理です。(1117)

イエスの名によって行動すること

奉仕活動は、イエスの名によって行動することです。私たちのすべての行動がイエスの名によってなされるならば、それらは永遠の命への実を結ぶでしょう。しかし、イエスの名によって行動することは、イエスの代理者とかスポークスマンとして行動することではありません。それは、彼との親密な一致の内に行動することです。名とは、家とかテントとか住居のようなものです。それゆえ、イエスの名によって行動するという事は、私たちが愛の内にはイエスと一致している場所から行動することなのです。「あなたはどこにいますか」という問いに対して、「私は、イエスの名の内にいます」と答えることができなくてはならないでしょう。そうであれば、私たち行なうことは何でも、奉仕以外の何ものでもなくなるのです。なぜなら、それはいつも、私たちの内に、私たちを通して行動するイエスご自身だからです。奉仕するすべての人々に対する究極的な問いは、「あなたはイエスの名の内にいますか」というものです。私たちがそれに対して「はい」と答えることができるならば、私たちの生活のすべてが奉仕となるでしょう。

(1118)

(九里 彰訳)

年間第5主日 (B)

「彼女はすぐに皆をもてなし始めた」 (マルコ1:29-39)

本日の福音は、イエスの典型的な生活を示しています。イエスは、教え、説教し奇跡を行い、祈りました。先週の日曜日の福音は、イエスの教えと説教についてでした。本日はイエスの癒しと祈りです。福音書記者は、これがイエスの通常であったと言っています。イエスは人々の生活の中に癒しと健康をもたらすために精力的に働きました。イエスは奉仕し、与え、分かち合うために存在されます。言い換えれば、イエスは他者のための人と考えられます。ここで私たちは、イエスがどのようにして地上の神の王国の到来を告げるといふ神の使命にこたえて、天の御父に仕えたかが分かります。神であることの証明として、イエスは数々の奇跡を行いました。人々はペトロのしゅうとめが熱をだしていると話しますと、イエスは彼女を治します。治るとすぐに、ペトロのしゅうとめはイエスとそこにいた人々をもてなしました。癒され、健康になるということは、再び奉仕を通して共同体を築き、分かち合いの仕事に加わることです。福音において、奉仕することは皆が招かれている愛の行いであり、私たちは特別に招かれている愛の行いです。

イエスは彼を神の子として受け入れた全ての困っている人々に手をさしのべられました。私たちはまた、日没の頃町中の人々がイエスの所に集まったことを聞きます。人々はイエスのもとに治して頂くために病人や悪霊に取り付かれた者を連れてきました。イエスは様々な病気のたくさんの人々を治し、多くの悪霊を追い出しました。イエスは全ての人のために時間と善意を持っておられました。しかし、福音は更に付け加えています。イエスはまだ暗いうちに起き、人里離れた場所に行き、祈られたと言っています。イエスは御父との時を過ごすために小高いところに退かれました。イエスは一日のきまった時間を祈りに過ごされたように思われます。そこでイエスは御父と会話をかわし、使命を続けるための力を頂きます。イエスには御父との親しさが必要でした。イエスはご自分が持っていないものをまわりの人に与えることはできません、イエスは御父から力を頂きます。シモンとその仲間たちはイエスを捜しに行きました。彼らはイエスに彼が人気のあること、皆が捜していること告げますが、イエスは静かさと人目を避けることを選び、イエスを必要としている別の場所に行くことを望まれます。あたかも、「私は仕えられるためではなく、仕えるために来ました」というイエスご自身の言葉のこだまのようです。成功した場所に戻るようという人々の提案をイエスは受け入れません。

これは、イエスの生活の意味です。彼は皆のための人です。言葉や行いでまわりの人と分かち合う時間があるところで、築きや癒しや和解のための時間があるところで、彼は祈りや黙想のための、神にもっと近づくための時間がある生活をします。イエスの使命を果たすために私たちが受けている召し出しに忠実であるため恵みを求めます。私たちもまた仕え、癒し、まわりの人たちの傷を和らげるために呼ばれています。私たちは、この世での苦しみを和らげる貴い仕事を持っています。私たちは、イエスのように人を癒す者となるように、イエスのように祈り深くなるように、御父の近くに留まれるようにイエスからの恵みを求めます。

(Sr. Paulina)

「イエスが、深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ」(マルコ 1, 41)。

重い皮膚病を患っている人、このような人物は、神から呪われ、神の契約の祝福から排除された者とされ、社会生活、典礼集会にも参加を禁じられ、こうして、神との愛の交わり、隣人との愛の出会いから遠ざけられ、一人で孤独の内に自分の人生、病の重荷を背負って生きざるえない状況に放置されていました。重い皮膚病を患っている人が、イエスの前に出てひざまずきまです。実は、これさえも、モーセの律法を犯す行為でした(レビ 13, 45)が。

しかし、イエスには、このような律法をも越えた行動を誘発する何か、律法にまさる権威があったのでしょうか。この人は、イエスの前に出て、自分の心からの願いを謙虚に、しかし、真剣に述べます。「御心ならば、わたしを清くすることができます」。「してください」と自分の願望に応えることを強要するのでもなく、イエスの御心にすべてを委ねる信頼と、それと同時に、自分には、資格も、権利もないことを自覚した態度です。

イエスは、「深く憐れんで、手をさしのべてその人に触れ」。「深く憐れむ」と訳された単語は、聖書では、神、あるいはイエスだけに適応される言葉であり、痛む愛、相手の痛みを自分のものとして身に受ける、共に痛み苦しむ愛を意味しています。また、これに続く言葉は、日本語訳では、「よろしい。清くなれ」となっていますが、原文を直訳すれば、「わたしは望む。清くされよ」となります。強い意思を示す単語が使用され、また、「清くされよ」との受身形の動詞からは、清くする行動主体が、人間の思いを超越する父である神ご自身であることが見えてきます。それまでは、神の律法によって汚れたものとされ、神との交わりから排斥された人間たちから見なされていた人が、実は、神に癒され、神との交わりに招き入れられる。この転換を生み出すのは、実に、イエスご自身が、律法が禁じている行為、「手を差し伸べて、その人に触れる」からです。この手は、いつの日か、十字架の上に伸ばされ、釘付けられ、傷付けられ、人間のもっとも深い傷、愛に生ききれない罪の傷に触れ、癒す手になるのです。今日も、同じ手が、わたしたちに触れてきます、傷を癒し、新しい命に立ち上がらせるために。このイエスの前に、ひざまずき、謙虚に、真剣に、赦しと癒しを懇願したいものです。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 7 主 日 (B)

イエスは言われる、“子よ、あなたの罪は赦される。”(マルコ2:1-12)

ご聖体祭儀は日常生活の中心にあり、行動力の源となっています。キリスト者は、神のみことばを聴いてこれを心に留め、実行するために、神の超自然的な恵みと祝福のうちに派遣されて行きます。

聖マルコの福音書に移りましょう。中風の人を運んできた人たちはイエスを信じていました。イエスのおられる処に入る余地がないと知って、外階段を使って屋根に上り、タイルをはがして穴をあけ、イエスの足元に吊り下しました。パレスチナの家々の屋根は低く平らで、中を涼しくするためにタイルや草で覆われています。はがすことは簡単でした。イエスは彼らの信仰に心打たれ、その全てのことを新しい歩みの中で受け留められました。その病が罪の結果であることを知っておられたイエスは、病人の罪を赦してその病を癒してくださいました。人の罪を赦すことによって、イエスは、全能の神と同じ力を持っておられる神であることを人々の前で証しされました。イエスは天の御父から発出した神の御子であって、地上で全てのことを行うことのできる力と、罪を赦す権能を御父から与えられていることを明白になさいました。“子よ、あなたの罪は赦される”とイエスは仰いました。これは驚くべき声明です。中風の方は体の病を癒していただくためにつれて来られたのであって、罪を赦していただくためではありませんでした。イエスはこの状況の全てを新しいこととして理解なさいました。イエスにとって癒すことはその人の体と心の総合的な癒しを意味しています。片手落ちの癒しではありません。“あなたの罪は赦される”と言うのと、“起きて、床を担いで歩け”と言うのとどちらが易いでしょうか。どちらも普通の人には不可能です。しかし、イエスはこの声明によって、ご自分が神の子であり、救い主であることをはっきりと、見える形で、人々に表わされたのです。イエスが、“起き上がり、床を担いで家に帰りなさい”と言われると、その人はすぐに床を担いで、皆のしている前を出て行きました。群衆は非常に驚き、イエスのなされたことを褒め讃えるばかりでした。

イエスの時代、病気と罪は繋がっていると考えられていましたから、心理的な心の癒しをもたらすイエスの声明は適確なことでした。しかしイエスが神であることをはっきり表明されたことは律法学者たちを動揺させました。現代でも、病気と精神的なストレスには密接な関係があり、総合的な癒しには体と心の治療が必要であるとされています。こう考えると、今、わたしたちが心から人を愛することができるなら、神を愛し、隣人を愛し、自分を正しく愛することができるなら、わたしたちに罪はありません。過去にどんなことがあっても、神は過去を記憶に留めてはおられません。神は、わたしたちをただ愛してくださるのです。わたしたちがその愛を受け入れ、わたしたちのうちに隅々にまでゆきわたらせるようお望みになります。神はわたしたちを抱きしめたいといつも待っていてくださいます。

(Sr. Paulina)

「それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した」(マルコ 1, 12)。

「マルコによる福音」でのイエスの誘惑の記述の短さは、神学的—霊的濃密さに逆比例しています。マタイ、ルカのより有名な平行箇所によって過度に影響されるままになっていることを避け、マルコのテキストをその独創性の内に把握することが必要でしょう。

イエスは、洗礼を受け、すぐにサタンから試みられた。共観福音記者たちは、イエスが、洗礼の後に、神の意思によって、服させられた特殊な試みの期間を記すことで一致しています。しかし、マルコは、他の福音記者たちが誘惑の内容について詳述するのに反して、そのことについては一言も触れてはいません。この事実でマルコが強調したいのは、イエスが服させられた誘惑、試みは、確かに、この開始の時期だけに関連するものではなく、イエスの公生活の間中伴っていたもの、特に、死の宣告、受難、十字架上の死で頂点に達したものであることです。民衆の期待に妥協するような、特に、十字架の論理とは縁遠い安易なメシア像の「示唆」の形態のもとに、イエスは揺さぶられ続けてゆきます。まさに最後の時に、「他人は救ったのに、自分は救えない。メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から下りるがいい、それを見たら、信じてやろう」(マルコ 15, 31-32) とのののしりの言葉に、誘惑は、最高点に達し、凝縮しているのですが。

テキストは、イエスを砂漠に押しやったのが、御霊、洗礼の時イエスの上に乗った同じ御霊であるとの事実、いかなる疑いも残していません。このようにして、イエスが、サタンから誘惑されるのも、自分勝手な選択のためではなく、時が満ちたのであるから、神の御旨への従順のためにであったことを、明瞭にしようとしているのでしょう。言ってみれば、この誘惑の出来事、しいては、イエスの全生涯の出来事、すべての演出家は御霊であり、その一つ一つを過ぎ越して行くことによって、イエスが真実なメシア、救い主であることが、明瞭にされてきます。またこのために、砂漠がそうであるような大変危険含みの状況をイエスにくぐらせるのです。キリスト者にとっても、洗礼後の生活は、砂漠に行かないまでも、日々、洗礼の現実への誠実さが試みられる場です。試練のときにこそ、聖霊の照らしと強めに信頼し、イエスと共に生き、御父の御旨に応える新しい者として立ち上がらされますように。 ルカ 渡辺幹夫

今、私は「ガリラヤのイエシュー」と題された山浦玄嗣訳の日本語訳新約聖書四福音書を手にして、新鮮な感動を味わっています。奇想天外ともいべきこの偉業への感動を、どのように表わしたらよいのかと思ひあぐね、あてどを失います。

山浦玄嗣氏は東北大学の医学者でいらっしゃるようですが、ご自身の故郷のことば岩手県気仙地方の方言「ケセン語」の研究者であり、福音書を是非自分のふるさとの言葉に訳したいと思われ、長い年月をかけて成し遂げられたということ。山浦氏の言葉です。「福音書はこれを読む多くの人にとって文字通り〈よきたより〉でなければならない。そのためにはこの書の言わんとしていることが読者の心に抵抗なく受け入れられ、共感と感動をもって理解される必要がある。訳者の試みはこの一点をめざす。」

山浦氏はそもそもこの書の前にケセン語訳の四福音書を完成されていて、次いでこの本は実は更なる試みの展開であり、聖書の登場人物はケセン語のみならず津軽、盛岡、京都、長崎、鹿児島などなど、日本の北から南までのさまざまなふるさとの方言を話します。

ガリラヤのイエシューさまは「わが救い主」ではなく、ケセン語を話す「お助けさま」です。ご自分のことを「俺」とか「やつがれ」などと云われ、(カラカラと大声でお笑いになり)(ボロボロと涙をこぼされ)(身も世もないほどおびえたりもなさり)(「案じんな！俺だ心配すんな！」と弟子たちに声をかけられます)。登場人物、出来事、情景、すべてが生き活きと血を通わせ、体温を感じさせ、生命力に満ち、生活感に溢れ、そして何よりも読み手の私自身もその場の一員です。机の上に聖書をひろげ文字を見つめる感覚に比べて、もっとももっと五感のすべてが躍動する現場感覚というのでしょうか、人物は一人が一人としての明らかな存在を示します。しかし、生活現場の真っ只中でありながら、そこにかもし出されるのは人間の尊厳と云いたい美しさであり、格調の高さです。それは、現れるべくして現れ出る訳者山浦氏の精神の高さであり、また情念の深さであると思います。私の感動もここに根ざしています。

Tという親しい友人がいます。熊本県の出身です。近頃Tは話のさなか、ここはどうしても熊本弁でしか言えないとお国言葉を持ちだします。因みに私は両親が熊本の出なので、操ることはできませんが、身に近くあった言葉です。Tの気持ちが分かるのです。Tは若い時分はむしろお国訛りを消して標準語をマスターしたいと苦心したそうですが、今は、どれだけ自分自身として

自分らしくいられるかが生き方となり、頭で整えるのではなく、体の内から湧いてくるものとしての熊本弁だと云います。方言は自然にそこに在るものだけど標準語は作り上げたものであり、云ってみれば身にまとう洋服みたいなもので、洋服の下にこそ本来の自分があると云うのです。ふるさと言葉を持たない私は自分自身に或るおぼつかなさを感じてしまいがら、そんなTをいつも聴きます。

また、3・11の被災地に、今なお大勢のボランティアが赴くことは私たちの希望でもあります。土地の言葉が分かり、土地の方言を話せる人は、当地にとっては格別であると聞き、今、あらためて心深く納得するのです。

正しい聖書の読み方というものがあるのかどうかわかりません。

しかし、長い年月聖書を身に引き寄せて、必死に取っ組み合いをしていると、知らず知らずのうちに、そこには自分流のイメージが固まっているのかもしれない。それが一概によくないこととは思わないのですが、「ガリラヤのイエシュ」を読んでいて、自分のイメージとかけ離れたりするとうろたえてしまうことがあります。そしてそれは既成を打ち壊すことへの促しであり、新しさへと開かれる兆しであるのだと気がつきます。

また、読みながらついつい自分の聖書と照合したりするのですが、本当はそんなことはせずに、先ずはただ無心に頁の中に浸るほうがずっといいと思いました。本書はそういう本です。

主イエズスは世の終わりまでいつも共にいてくださいます。「共にいる」ということが、今日は日頃と違って、逞しさをもって体にどかーんとぶつかってくるように、ぐっと近くありました。

イエシュさまはこう言いなされた。

「俺の肉をムシャムシャ食らい俺の血をゴクリゴクリと飲むものは、いつでも明るく生き活きと生きる力を身に受ける。そうしてこの世の仕上げの日、俺がその人たちをまた生き活きと立ちあがらせる。なぜならば、俺の肉こそまことの食いもの、俺の血こそはまことの飲み物、俺の肉をバリバリ食らい俺の血をガブガブ飲むものは、つまり俺と同じになる。そしてこの俺もまたその人と一心同体」 (ヨハネ6-54~56)

「来る日も来る日もこの俺は、お前たちといっしょにいるぞ」

(マタイ28-20)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その2

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事柄について話をしていてを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもととなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の靈魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって霊的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ

—— 祈り ——

私は死にかけています。死にかけているように感じるのです。私のイエス、私は、自分をあなたにお捧げいたします。私の罪と罪びとたちのために、私の命をあなたにお捧げします。私の母であるマリア様、私をいけにえとしてお捧げください。昨日、本当に私は胸の痛みに耐えることができませんでした。窒息しそうだったのです。呼吸ができず、その苦痛は私を疲労困憊させてしまいました。私の罪と罪びとたちのために、このすべてのことを、イエスにお捧げします。

明日、聖体拝領に行きます。私のイエス、どれほど聖体拝領を待ち望んでいたことでしょう。私は本当に悪い者です。良い者になるために、あなたが必要なのです。来てください、愛であるお方よ、早く来てください、あなたが来てくださるとき、私の心、私の靈魂、そして私の持っているすべてのものをあなたにお捧げします。母であるマリア様、私のイエスをお受けするために、私の心を準備してください。

おお、私の愛するイエス！ 父は、私を[修道院に]行かせたくないのだと思います。カルメル会の修道女方に対して、大変な敵意を抱いているのがわかります。私のイエス、あなたに信頼します。あなたは全能でいらっしゃいます。私を盗みに来てください。早く、すぐにでも、そして永遠に、盗みに来てください。

イエス、この十字架を感謝いたします。私の十字架をさらに重くしてください。そして、私にカと愛をお与え下さい。イエス、私は、あなたと共に苦しむのにふさわしくないことを知っています。感謝の足りないことをお許しください。罪びとたちをあわれんでください。司祭方を聖なるものとしてください。

私は、混乱の状態の中で生きています。絶え間ない頭痛のために、すべてのものが、異なった色に見えます。私の神よ、私の意志ではなく、あなたのご意志が行われますように。私と罪びとたちの罪のために、そして司祭方が聖なる者とされるために、私の苦しみをあなたにお捧げいたします。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 1月

あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、
上にあるものを求めなさい。そこでは、
キリストが神の右の座に着いておられます。

(コロサイ 3・1)

聖パウロがコロサイの共同体に向けたこの言葉は、私たちに、真の愛と満ち満ちた交わり、正義、平和、成聖、喜びが行き渡る世界があることを告げています。罪と墮落がもはや入り込むことがなく、御父のみ旨が完全に実現されている世界です。それはイエスに属する国です。ご受難という厳しい試練を経て、イエスが復活によって私たちのために開いてくださった世界です。

あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

このキリストの世界に、私たちは招かれているだけでなく、すでにそこに属していると、聖パウロは言っています。信仰が私たちに告げているのは、洗礼を通して私たちはキリストに結ばれたのだから、キリストの命、賜物、遺産、罪と悪に打ち勝つ力にもあずかっているということです。実際、私たちはキリストと共に復活したのです。

ただし、すでに目的地に達した聖なる人々とは違い、私たちはこのキリストの世界に、まだはっきりと完全に、しっかりと決定的には、属していません。この地上で生きている限り、私たちは危険や困難、誘惑にさらされ、それらが私たちをためらわせ、歩みを妨げ、道からはずれさせてしまうこともあるでしょう。

あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

そこで、使徒パウロの「上にあるものを求めなさい」という勧めは、次のように解釈できるでしょう。「物質的に、というよりも、精神的にこの世から遠ざかりなさい」「どんな状況にあっても、イエスの考え方、感じ方に従うため、世の中のルールや欲望を捨てなさい」と。実際、「上にあるもの」とは、イエスが地上にもたらされた天上のおきてを指しています。私たちが今から実現するようイエスが望まれる、天の国のおきてです。

あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

では、この「いのちの言葉」をどのように生きるべきでしょうか。この言葉は、私たちが中途半端に妥協してしまう、生ぬるい生活に甘んじることなく、神の恵みを通じて、自分の生活をキリストのおきてと一致させるよう勧めています。

また、私たちが自分の置かれた場所で、イエスが地上にもたらされた価値観を生きて、証しするよう促しています。それは一致と平和の精神、兄弟への奉仕、理解と赦し、誠実、正義、勤勉、忠実さ、清さ、命の尊重などの価値観です。

これらは、広く生活全体に及び目標ですが、あいまいにならないように、今月は、イエスのあらゆるおきての要約ともいえる、一つのおきてを实行したいと思います。それは兄弟一人ひとりの中にキリストを見て、奉仕することです。これこそ、私たちが人生の終わりに問われることではないでしょうか。

キアラ・ルービック

今年も1月18日から25日にかけて、世界各地で「キリスト教一致祈禱週間」が行われます。今年のテーマとなる聖書の言葉は、「わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます」(一コリント15・51-58 参照)です。今月は、この言葉に関連する箇所として、フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、1988年4月に発表したものを取り上げています。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

お知らせ

一み言葉を生き、実りを分かち合うために一

新年会

新しい年、つながり、そして神様の恵みを分かち合いながら

関東

日時：1月9日(月・祝) 14:00
(13:30 受付)

場所：四ツ谷 イグナチオ教会

ヨセフホール

* 詳細は各フォコラーレセンターまで。

ある晴れた日、お昼休みに川沿いの緑地公園に行き、お弁当をひろげました。そこへ一人のお年寄りの方が来て、私の隣りに腰を掛け、しばらくすると、よほど悩んでいたらしく、お嫁さんとのことなど苦しいことを話し始めました。私は職場でむずかしい日々を過ごしていたので、それを聞くのが辛かったけれど、共感するところもあり、穏やかな心を保つようにしながら聞いていました。話し終わると気持ちがすっきりしたらしく、明るく挨拶して去って行きました。逆に私はその話で暗い気持ちになり、「イエズス様、こんなに年をとった方なのにまだまだ苦勞しなければならぬのですか?」とたずねました。

一週間後、会社の帰り、駅に向かって坂道を上っていると、ショッピングカーにいっぱい買い物を入れて坂道を下りてくる人が見えました。もしかしたら、重い買い物の話もしていた、あの時の人、、? こんな所で会うとは、と、なつかしい気持ちになって、「こんにちわ!」と声をかけました。彼女はげんそうに私をじっと見つめ、突然、驚いたように大きな声で「まあ、あの時の、、覚えていてくださってありがとうございます!」とうれしそうに叫びました。そして言いました。「声をかけてくださってありがとうございます!」と。

そのまま別れましたが、私の心も晴れ晴れとなりました。「イエズス様、ありがとう。」
(M)

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (55)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「とても気品のあった」アンヘラ・デ・アレマン

十字架のヨハネの世界に入った人は、そこから出ることが非常に難しかったことを示す事実があります。悪魔のロベルトで触れた出来事の他に、彼の人間性と聖性の両方によって捉えられた多くの人々の例があります。

アンヘラ・デ・アレマンの例は、とてもよく知られた出来事の一つです。アンヘラの甥であるドン・アントニオは、このように物語っています。

「18の質問に対し、この証人はこう答えました。彼は、聖なる十字架のヨハネ修父を、またその大きな愛を知っていたということです。聖人は、神への大きな愛と、人々の霊魂に対する大きな愛や彼らの善益を望む熱い心を出会う人々に示していました。この証人の証言によって、そのことを知ることができます。修父と交わることにより、主に熱心に仕えるようにさせられた人々の中に、この証人の叔母にあたるアンヘラ・デ・アレマンがいたことを知ることができます。彼女は、若くて美しい女性で、とても気品があり、いつも華やかな服装をしていました。この虚飾のただ中で、彼女はこの聖人に告解にやってきました。彼女は、聖なる説教や道理、聖人の苦行や模範を聞いた後、すべてを捨てるように心を動かされ、たった一回だけで、彼女を知っていた多くの人々を驚かせるほど、変わってしまいました。なぜなら、その後、家にもどると、彼女は髪を切り、粗い布の頭巾をかぶり、装身具を取り外し、カルメル会の修道女のように、粗い目の毛織物の服と、茶色のスカプラリオとコートを身にまとい、簡素なサンダルをはき、パンと水だけで、何日も断食をしたのです。非常にざらざらしたシリス（苦行用の下着）を身につけ、ディシプリーナ（鞭打ち）を長く行ないました。祈りと聖書や聖伝の読書、隠遁と苦行に何年も時を費やしました。神はこれらの修業のさなかに、彼女を跣足カルメル会修道女になろうという望みを起こさせました。このことは、——この証人は確信したのですが——、幸いなる十字架のヨハネ修父の聖性によって彼女の身の上に引き起こされたのです。というのも、彼の言葉は、主に熱心に仕える欲求を私たちに引き起こさせるほど力強いものだったからです。彼女の変化を知った人々は、このことを確信していたことが分かります。すべての経過を、この証人は知っています。なぜなら、彼はそれを見たからであり、叔母のアンヘラ・デ・アレマンが聖人の所に話をし、告解するために出かける時、ほとんどの場合、彼がお伴をしていたからです。この証人は、ちょうど同じ町で、イエズス会の神学生だったのです」。

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

「跣足カルメル修道会の総長代理であった在俗会「ノートルダム・ド・ヴィ」の創立者、幼きイエズスのマリー・ウージェンヌ神父の英雄的な徳が認められました。

(ローマイタリア発 (2011年12月19日))

ヴァチカンには、「神のしもべ*」跣足カルメル修道会司祭で在俗会「ノートルダム・ド・ヴィ」の創立者、幼きイエズスのマリー・ウージェンヌ神父の英雄的な徳を認め、2011年12月19日、彼に「尊者」の称号を与えました。*訳注：「尊者」の前の称号



マリー・ウージェンヌ神父は、1894年12月2日、南フランスのアヴェロン県の小さな鉱山の村ガールのつつましい家庭に生まれました。彼は、少年時代から司祭への召命にあこがれ、17才で神学校に入学しました。その3年後に第一次世界大戦が勃発し、彼は志願兵として軍隊に入隊しました。兵役中、彼はリジューの幼きイエズスの聖テレジアから、特別なご保護を感じ取りました。終戦後、彼は再び神学校に戻り、1922年2月4日に28歳で司祭に叙階されました。

彼は神学校時代に跣足カルメル修道会への召出しを感じて、叙階式の20日後にパリ近くアヴォンのカルメル修道会の修練院に入り、幼きイエズスのマリー・ウージェンヌを修道名としました。

彼は、そこで祈りの生活に邁進し、カルメルの聖人達の教えを学ぶことに没頭しました。使徒職の当初より、彼は執筆と黙想を通して、カルメルの聖人達の体験や祈りの実践の深い霊性を共に分かち合うことに専念しました。

彼は1937年に総長顧問に選出され、1954年に総長テレジアのシルベリウス神父の逝去に際し、総長代理を務めました。彼はローマに滞在していたこの時期に、跣足カルメル修道会の聖人たちの教えの優れた総合である、『私は神を見たい』を著わしました。

1954年3月27日に、彼はフランスのノートルダム・ド・ヴィで73歳で帰天しました。

● ノートルダム・ド・ヴィ

1932年にマリー・ウージェンヌ神父が、同時代の世の人々に観想の祈りの豊かさを正しく知らせるために、在俗会ノートルダム・ド・ヴィを創立しました。会員は男女の信徒及び聖職者で、祈りの小道を生き、人々に教える中で、神の現存を証する召出しを受け取っています。

新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ’13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父
(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

3月 9日～ 3月10日

6月22日～ 6月23日

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉献生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土) 福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土) 福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

4月19日 「信仰の創始者、完成者であるイエス」 福田正範神父

6月21日 「信仰に生きる」 古川利雅神父

9月 6日 「信仰の成熟」 渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日10時～16時)

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 福田正範神父

7月13日 「ロス・アンデスの聖テレサ」 古川利雅神父

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」 渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女)

4月28日(土) 15時～4月30日(月) 「希望に生きる」

福田正範神父、古川利雅神父、神学生

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 召命黙想会(男女)

7月14日(土)14時～16日(月) 「愛に生きる」

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日か復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～8日(日)《講話なし、各食事つき》

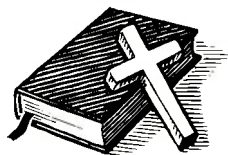
【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 聖週間前の黙想会(2013年)

※注) 2013年

3月17日(日)18時～3月19日(火)15時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

テーマ《カルメルの聖人》

「幼きイエスの聖テレジア」



日時： 2012年2月17日（金） 10時～16時
指導： 福田正範師（カルメル会上野毛修道院司祭）



場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）

お申込み・・・FAX、メール、ハガキにてお願い致します。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

お問合せ・・・TEL.03-5706-7355
FAX. 03-3704-1764
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年3月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

※1月31日は中止になりました。

2月21日	2月24日
3月27日	3月23日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

2月7日	2月10日
3月6日	3月9日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

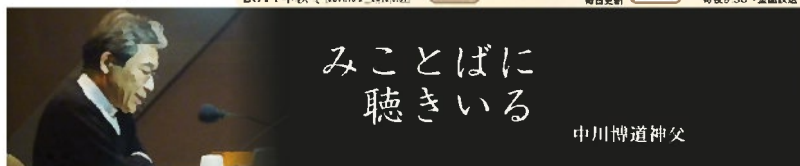
17	2月3日	「キリストと共に生きる道」(3)
18	2月17日	「主の祈り」
19	3月2日	「キリスト者が大切にしていること」
20	3月16日	「秘跡」(1)
21	3月30日	「秘跡」(2)

キリスト教放送局放送中
ラジオ(月)夜10:15~
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局
FBC
2011年秋冬(2011.10.2~2011.3.31)

インターネット放送
www.febejp.com
毎日更新

AMラジオ放送
AM1566kHz
毎夜9:30~全国放送



2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

12月27日(火)～ 1月 4日(水) 新井延和神父

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

3月24日(土)～25日(日) 一粒の麦 九里彰神父
5月12日(土)～13日(日) 聖母の愛 新井延和神父
7月 7日(土)～ 8日(日) 聖霊の体験 今泉健神父
9月 1日(土)～ 2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父
11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

【聖書深読黙想会】

- 1日 (午前10時～午後4時)

2月 4日(土) 松田浩一神父
4月28日(土) 新井延和神父
6月30日(土) 新井延和神父
10月 6日(土) 新井延和神父
12月22日(土) 新井延和神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2月15日(水) 悔い改め 新井延和神父
3月14日(水) 聖ヨゼフの愛 新井延和神父
4月18日(水) 復活のキリスト 今泉健神父
5月30日(水) マリアとヨゼフ 新井延和神父
6月20日(水) キリスト教信仰 松田浩一神父
7月25日(水) 真理 新井延和神父
9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父
10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父
11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父
12月12日(水) 受肉 新井延和神父

- 四旬節の黙想 (午後8時～午後4時)

3月2日(金)～ 3月4日(日) 松田浩一神父 神の子主キリストの憐れみ

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

- 聖テレズの黙想（午後5時～午後4時）
9月30日（日）～10月1日（月） 伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】（午後8時～午後3時）限定10人
5月2日（水）～5月6日（日）松田浩一神父

カルメル青年黙想会（午後5時～午後4時）
4月28日（土）～4月30日（月）カルメル会士 観想者イエス。キリストに従う
11月10日（土）～11月11日（日）カルメル会士 観想者聖マリアに従う

【一般のためのカルメルの霊性入門】（午後5時～午後4時）
2月24日（金）～2月25日（土）松田浩一神父
イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊的識別
10月14日（日）～10月15日（月）松田浩一神父
イエスの聖テレサの靈魂の城の導入

奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）
8月2日（木）～8月11日（土）松田浩一神父
8月16日（木）～8月25日（土）今泉健神父
12月27日（木）～1月5日（土）新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
4月5日（木）～4月8日（日）[講話なし、各食事つき]
【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日（月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

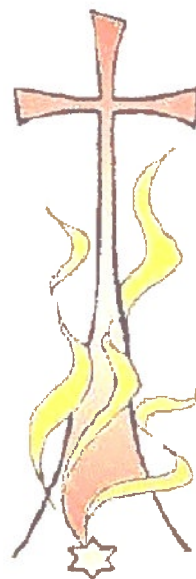
【参加者人数】

6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12:21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川閑雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エウジェニス姉 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市長東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第1回 4月30日(月・祝) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月27日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき

(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけではなく

心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「カルメル」
今日の靈性・冬号
特集号



2011 冬 No.343

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ

川村信三 16

悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

釘宮禮子 29

使徒職の現場から

松田浩一 37

神のいつくしみの中に生きる

イエスの聖テレサ

九里 彰 51

暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

目次

二〇一一年特集 マリー・エウジェニス (4)

伊徒信子 3

幼きイエスのマリー・エウジェニス神父

伊徒信子 3

神の証し人

伊徒信子 3

マリー・エウジェニス神父と共に接する 幼きイエスの

マリー・エウジェニス

ロザリオの祈り

高・武 中山寛里 11

「完徳の道」におけるアウイラの聖テレシアと離脱

九里 彰 15

カルメルの靈性の源流を探して

中川博道 24

その「会則」に見る生活

中川博道 24

修道院生活 春夏秋冬 (4)

高橋重幸 31

私のよるこび

ペトロ・アロイジオ 38

ナチスのユダヤ人迫害とエディット・シュクティン

須沢かおり (2) 46

「カトリシズム」を貫くもの

谷口正子 52

——日本のカトリシズムを守った人々

谷口正子 52

愛の断章 22

奥村一郎 59

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
マリアの御心会
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- M 2 02/13 (月) -2/17 (金) 韓国グループ限定 兵庫・売布・女子ご受難会 (4泊5日)
- P 1 02/11 (土) -2/17 (金) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会
- B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト
- M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 06/01 (金) -6/7 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の
手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉
を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月 9日 信仰の神秘
- 3月 8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリスト
とともに、キリストの内に
- 7月12日 御聖体に生かされて生きる
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月 8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想(11-15世紀)
01/07、1/14、01/21、01/28

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所: 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

2012年 2月4日(土)10時～5日(日)15時(東村山)
*1泊5900円程度

●アガペ会

2012年 1月21日(土)
説明会・集い(13時半～): 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
ミサ(17時～): クルトウルハイム1階テレジア聖堂



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

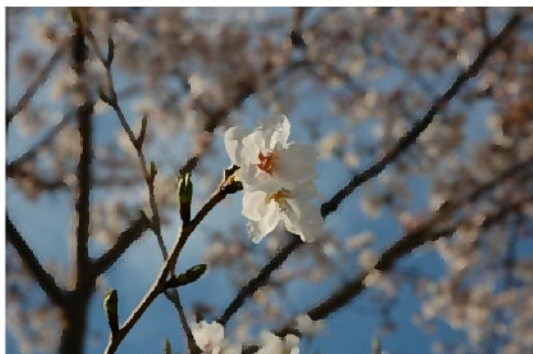
リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2012年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2012年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

- 02/03 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/04-05 黙想会(東村山)
02/10 結婚と独身— 愛の道
02/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
02/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
03/02 人間の苦悩— 悪とは何のためか
03/09 死— その受け入れと克服
03/16 人生の完成— 神の内に生きる
03/23 人間の刷新— イエスに習う人生
03/30 聖母マリア— 信じる者の原型

信仰の実現

- 02/04-05 黙想会(東村山)
02/07 祈りの本質と霊的読書— 神との心の交流
02/21 日常に活かされる霊性— 活動における観想
03/06 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う



《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウド・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)
-5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

2月 25日(土)

3月 24日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ①11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ②12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③8月15日(水)～8月23日(木)
- ④10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ①2月3日(金)～2月5日(日)
- ②4月27日(金)～4月29日(日)
- ③5月18日(金)～5月20日(日)
- ④6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

神を信じて生きてみる

神の御旨を歩む
神よ、私は自分の考えではなく、あなたの御旨を歩みたいのです

2012年 召命黙想会

日時 **2月18日(土) 15:00~**
19日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：2月12日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbenifty.com

マリアの御心会

働いている人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2011年12月14日

2012年1月11日、2月8日、3月14日



軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

お問い合わせ

TEL 03-3351-0297

祈り：お話と実践

沈黙のうちに神を求めて

—観想の祈りへの道—

(第四回目)



くのり

九里彰神父

(カルメル会日本管区長)

日時：2月15日(水)

午後2時～4時

場所：イグナチオ教会

信徒会館401号室

*参加費無料(献金歓迎)

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

靈性センターニュース

年間購読(郵送)のご案内



『靈性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

＊

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

新年号の編集後記において、昨年の東日本大震災のことについて触れた。その災害の規模が原発事故によって増幅された事実から、原発依存の日本の政策について批判的な意見を述べたところ、一読者の方からご批判のファックスをいただいた。

私自身は、どこの政党とも関係なく、今も原発推進派とも反推進派ともつながっていない。ただ、これからも起こると予想されている大地震によって、国が滅びる愚は避けねばならないという立場から、意見を述べただけである。

戦後、原子力の平和利用という理想のもとに、多くの優秀な人材が、原子力の研究開発のため、社会の善益となると純粋に信じ、昼夜を徹して働き、大きな貢献をされた。これら人々の努力や業績を否定する者ではない。またこれまで原子力発電によって社会が多大の恩恵を受けてきた事実も否定するつもりはない。ただ、平和利用という理想そのものが危うくなってきたことだけは、確かであろう。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「3月号」製本日 2月28日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171